

# 事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報		事業番号	0380/503020/04/00	事業の種類	4
年度	19	事務事業名	ジュニアスポーツ普及振興事業	作成日	平成21年1月20日
重要度	4	予算事業名	ジュニアスポーツ普及振興事業	担当部課名	体育振興課
政策名			愛着と生きがいを育むまちづくり		
施策名			スポーツ・レクリエーション	実施計画への記載	無
				主要事業の指定	無
根拠法規及び関連法規					
事業の目的	誰のために(具体的に)	市民(ジュニア層)			
	誰(何)を対象として	市民(ジュニア層)			
	意図(どのような状態にしたいのか)	子供たちのスポーツへの関心が高まり、学校で、地域で、家庭で生き生きとしたスポーツ活動が展開される。特に小・中学生のスポーツ人口の増加と基礎体力が向上する。			

## 2 事業の概要 Do

実施の概要	小中学生の基礎体力の低下が叫ばれて久しく、体力だけでなく児童の精神面や人格形成に、また学力の低下に影響を及ぼしているといわれている。「健全な精神は健全な肉体に宿る。」の言葉どおり、児童に対し学校体育だけでなく広くスポーツに接する機会を提供することは、重要な課題である。					
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	相生湾子ピッツ子駅伝	チーム	0(積雪中止)	64	50	55
	少年親善剣道大会	チーム	100	114	87	90
	ジュニア陸上競技教室	人	92	70	70	75

## 3 投入資源

会計区分		一般会計			事業費単位:円				
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.084	101.2	0.081	96.4	
	主幹以下職員	0.650	0.650	100.0	0.500	76.9	0.500	100.0	
	臨時職員	0.100	0.100	100.0	0.100	100.0	0.100	100.0	
支出内訳	人件費	6,969,157	6,554,647	94.1	5,335,561	81.4	5,270,791	98.8	
	事業費	2,283,935	1,910,000	83.6	1,580,000	82.7	1,460,000	92.4	
	合計	9,253,092	8,464,647	91.5	6,915,561	81.7	6,730,791	97.3	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	9,253,092	8,464,647	91.5	6,915,561	81.7	6,730,791	97.3	
	合計	9,253,092	8,464,647	91.5	6,915,561	81.7	6,730,791	97.3	

## 4 評価指標

### 【有効性】

指標名1	ジュニアスポーツ普及振興事業								
指標説明(式)	事業(大会・教室等数)								
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
事業	目標	12	12	100.0	12	100.0	12	100.0	
	実績	12	12	100.0	12	100.0			
指標名2	事業参加者数								
指標説明(式)	事業参加者数÷対象者数(児童・生徒数)								
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	目標	0.73	0.72	98.6	0.77	106.9	0.77	100.0	
	実績	0.72	0.78	108.3	0.80	102.6			

【効率性】

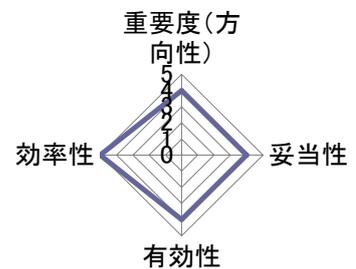
指標名1		総事業費コスト							
指標説明(式)		ジュニアスポーツ普及振興事業費÷事業参加者数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	実績	1,248	959	76.8	797	83.1	768	96.4	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	種目別大会や陸上競技力向上事業として実施している記録会、教室、合同練習会等により多様な機会の提供ができています。	4	4
	市の関与の妥当性	児童に対して、広くスポーツに接する機会を提供することは、重要な役割である。		
有効性	成果目標(改善)達成度	振興事業が目標値に達している。	5	4
	市民サービス	子供たちにあった教室や事業への参加の機会を提供できています。		
効率性	コストの節減	すべての事業についてコストの見直しを行った。	5	5
	手段の最適性	基礎体力の向上を基本目標に、陸上競技に係る事業に力を入れた事業展開を図っており、妥当と考える。		

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	成果の向上	小学校における事業に対する認識が低く、今後の連携が求められる。



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	コストの節減	すべての事業に対して経費の見直しを行い削減。
H19→H20予算反映額		△ 120,000

(2) 20年度の実施方針

生涯学習課所管事業「子どもチャレンジ事業」とタイアップし、子供たちの動機付けも図りつつ、相乗効果を図る。

検討の有無	-
総合指標	23